

神戸市老人福祉施設連盟 第三者評価【基本情報シート】

施設名	特別養護老人ホーム 六甲の館	定員	70名
設置・運営(法人名)	社会福祉法人 弘陵福祉会	開設	昭和61年8月1日
所在地	〒651-1101 神戸市北区山田町小部字妙賀山13-17	TEL	078-594-2451
交通アクセス	神戸電鉄「北鈴蘭台」駅下車東へ約1.7km(タクシーで約4分)、マイカーの場合は、有馬街道小部峠より森林植物園方面へ	URL	http://rokko-yakata.jp/

■法人の事業体制

1 同一法人内での実施事業			
特別養護老人ホーム 短期入所生活介護			
2 介護・看護職員数等(短期入所併設の所は合算した数)			
●介護・看護職員1名に対する入所者	2.5	名	
●介護・看護職員平均勤続年数	5	年	
●介護・看護職員平均年齢	44	歳	
●人材確保と育成の方針			
法人(施設)理念を理解し、全員で同じ方向に向かっていくなかで、仕事のやり甲斐や、やる気を自発的に作っていきけるよう、委員会活動等を通して支援しています。 職員自らは、法人理念を実行し、「六甲の館の一員として、地域で、一番働きたい施設にします」という行動指針を示したクレドカードを作成し、毎日唱和しています。 法人はそれらを支援する活動を積極的に行っています。			
3 施設の方針・理念			
法人理念を「心からのおもてなし」とし、 ①笑顔とありがとうの言葉あふれるホームにすること ②常に職員自身が受けたいと思う、家庭的なサービスの提供 ③ボランティアの積極的な受入等による、地域に開かれたホーム作りを目指しています。			
4 施設の特徴			
認知症状の高齢者が多い特別養護老人ホームでは、スタッフが笑顔で明るく対応することが、最も利用者へのケアの基本となっています。 施設の中も29年目と歴史はありますが、2014年に改装して出来るだけ明るく清潔なイメージを打ち出せるよう白を基調とした内装にしました。 お一人お一人にお元気になって頂けるよう自立支援介護に力を入れ、可能な限りオムツではなくトイレで排泄をして頂いて、寝たきりにならないよう力をいれています。			
5 ボランティア・研修・実習生の受け入れ			
これまで年間のべ 1000 人近い方にボランティアとして受け入れ、立地的に高齢者が地域に出かけることが難しい問題を解消するべく、利用者との交流を積極的に行っています。 正英幼稚園、桜の宮中学校、小部中学校、甲北高校、シルバーカレッジ、老人会、コープボランティア、シャンソングループ「シャンゼリゼ」、音楽療法グループ「ワルツ」「カノン」などにきて頂いています。 各研修は研修委員会の積極的な活動により年間計画に基づき、毎月計画的に内部・外部研修を実施しています。最も特徴的な研修が「能力向上研修」です。施設職員自ら研究したことを施設内で講師として発表し、研修を行い、職員間で切磋琢磨出来るシステムとなっています。 神戸学院大学、神戸親和女子大学、NHK学園等の社会福祉士の実習生の受け入れを積極的に行っています。			
6 地域との連携(施設開放、協同行事等)			
社会ネットワーク団体「北区南部エリア社会福祉士の会」による高齢者支援活動のため、施設内を開放し支援を行っています。 桜の宮地区民生委員協議会の皆様に介護保険研修を行ない、実施しています。			
7 居室形態			
●種類	<input checked="" type="checkbox"/> 従来型	<input type="checkbox"/> 個室ユニット型	
●料金	居住費	300円	食費 1380円
8 家族との協力(家族会・行事への参加等)			
年一度の家族会では、出来るだけ多くの家族に参加して頂き、施設方針や介護サービス、施設行事、職員について詳細に説明を行っています。 6か月に1度のカンファレンスには家族が参加して、施設サービスへの理解と要望をお聞きしたりする機会を設けています。 施設便りを毎月10日に発行し、施設行事のお知らせをしています。			

■サービス提供体制

入所条件	要介護の認定を受け、居宅において介護が困難な方。 人口透析など医療行為が常態的に必要な方や、疥癬等の感染症の方は受入困難です。
施設内自由度	他の利用者さんのプライバシーを侵害しない範囲で、厨房等一部を除いて、ご自由にご利用頂けます。
居室の環境	個室はなく、3人部屋と4人部屋で、広さは36.9㎡で、21室。 標準的な各居室の設備は、洗面・ベッド・整理ダンスです。 すべての居室に、個人のTV及び、無線LANのパソコンを持ち込んで使用可能となっています。 プライバシーの確保の仕方として、障子のデザインをアレンジした可動式間仕切りを設置しています。
外出などの自由	利用者さんの希望に基づいて、行事委員が遠足、外食ツアーを実施しています。 ご本人とご家族さんご希望の場合は、常時、自由に外出して頂けます。
身体拘束・虐待防止対策	身体拘束・虐待防止対策委員会、事故防止検討委員会で月1回以上検討会を行います。 原則行わないませんが、緊急やむを得ない場合のみ マニュアルに基きご家族の承諾を得た上で方法と期間を検討し実施することもあります。
食事	行事食、誕生日食、季節メニューを提供しています。 療養食、体調に合わせた細かい献立にも対応しています。
入浴	各フロアごとに個人浴槽、1Fには、機械浴槽があります。 入所者様の体調や身体状況に合わせた入浴をして頂いています。
排泄ケア	自立支援介護の取り組みで、トイレでの排泄介助に力を入れています。 アセスメントを行い、個人に合った排泄方法の見直しを随時行っています。
医療体制	嘱託医師が近隣の協力病院である春日病院から週2回来館があります。 協力病院への受診・入退院時は職員による無料送迎です。 大石歯科クリニックの歯科医による往診が月3回程度、水曜日にあります。
ターミナルケアの実施	<input type="checkbox"/> 積極的に行う <input type="checkbox"/> 行う <input checked="" type="checkbox"/> 行わない
認知症ケア	認知症状のある方になるべくご自由に過ごして頂ける様、居室フロアは玄関のある階とは別にしています。 音楽療法や2013年8月からは、セラピーロボット「パロ」3台の導入を行い、認知症状のある方のセラピーに役だっています。 2014年8月には、TV「おはよう朝日」をはじめ、新聞、雑誌等の取材を受けました。
アクティビティ	元歌劇団のプロの方に、年間約3回、「歌って踊る」パフォーマンスを披露して頂いています。その他、毎週ボランティアによる喫茶や、毎月プロまたはアマチュアによる音楽療法、ボランティアによる書道、茶道、年2回コース等を開催しています。 ハワイアンダンス、新舞踊、落語のステージボランティアさんには、毎月のお誕生日会や敬老会やクリスマスなど季節行事に来て頂いています。

特別養護老人ホーム 六甲の館

総合評価

- ◎ ほぼすべての項目において、施設の惜しみない努力と研鑽の姿勢が感じられた。入居者を大切にし、職員を大切にしている姿勢が随所に垣間見ることができた。
- ◎ 入居者が重度化し本人の感情表出が困難になる中、日々の関わりから得られた情報を職員で共有し、家族とも協議し改善をされていた。その代表的なものが、今回見た多床室の間仕切りである。
- ◎ また、書類関係をみても現状に満足するのではなく、どうすればもっと良くなるのか、皆にとってわかりやすいものになるのかを常に考え、改善されてこられた過程がよく理解できた。施設運営において、現場の職員の声が多分に取り上げられているボトムアップ方式が取られていることも、職員の企画書の数を見て確認できた。職員が主体的に考え、行動できるように育成することは研修の効果もあるが、日々このように職員の声を如何に吸い上げるか、如何に任せるかという経営者や管理職の心持ちが重要であるという、よいモデリングとなり得よう。

特筆すべき項目・取り組み

- ◎ 毎週実施している役職会：現状の把握、問題・課題の分析改善が遅滞なく実施されている。上層部だけで問題の検討をするのではなく、各部署から参加し情報の共有化を徹底している。
- ◎ 環境整備：プライバシー保護の観点から、多床室に間仕切りを設置する大改修を実施。これにより、限られたスペースではあるが独立した空間が生まれ、入居者に安心感を与えることができた。また入浴も個浴ができるように改修し、個別ニーズに対応できるように整備された。
- ◎ 職員の業務負担の緩和：記録や情報の検索に時間を要していたので、専用ソフトを導入し、職員の業務負担の緩和を図る。
- ◎ サービスの質向上、職員の能力向上にむけての取り組み：各種研修、委員会を定期的開催し、職員自らが考える体制を整えている。研修は継続性のあるもので、その積み重ねが実践力へ成長させていると思われる。
- ◎ 入居者支援：重度化する入居者に対し、できるだけ楽しみが持てる環境づくりをしようとする施設の取り組み（ボランティア活用、手作りお菓子等）が見られた。施設自身が懸念しているように、今後さらに重度化が進むと、現状の取り組みが継続できるのか再検討していく必要が生じると思われる。

改善が必要な項目・ポイント

- ◎ スーパーバイザー等介護の専門職を導入して職員の意見だけではなく、専門家の意見も聞き管理職で方向を決定することも必要と感じた。
- ◎ 食事の様子を目視した際、職員数が不足しているのか、1人の職員が2人の入居者に食事介助を同時に行っていた。改善事項は職員数が多くなれば解決できると感じた。
- ◎ ターミナルケアの自己評価の低さが気になった。ターミナルケアの実施を行い、サービスの質を上げてほしい。

外部評価結果に対する施設の見解

この度、当施設が神戸市老人福祉施設連盟第三者評価を受審し、訪問調査員から総合的な所見を頂きました。頂きました所見を当施設で検討を行った結果は以下の通りです。

指摘頂きました点への対応のみならず、人材育成、安定した経営、サービスの質の向上をめざし奮闘していくこととします。

施設名 特別養護老人ホーム 六甲の館 記入者 施設長

当施設の見解

平成 25 年度、26 年度と 2 年続けて第三者評価を受審致しました。受審して良かった点は、利用者様、地域のニーズ把握を再確認し、サービスの向上へ向けた取り組みを考える機会となったこと、また、毎年受審したことで、昨年より向上できた点が明確となり、サービスの質を上げていこうという職員のモチベーションも継続できたことであると感じております。

細かい点では、平成 26 年度に、より深い調査・分析を行なわれていること、そして、評価結果も、「総合評価」、「特筆すべき項目・取り組み」、「改善が必要な項目・ポイント」、「得点票」と、よりわかりやすく、読みやすい表現になっており、施設として第三者に見て貰う際に、説明がしやすくなりました。今後のサービスの向上に活かす機会を与えてくださった老施連第三者評価制度に感謝致します。